vinetur

The 50 Best Vineyards、2026年授賞式をサンティアゴで初開催へ

11月18日のイベントに合わせ、アパルタとビオビオへの任意ツアーを含むホスト付きメディアプログラムが組まれる。

2026年9月25日（金）



The 50 Best Vineyards 2026の授賞式を主催する運営側は、来年の式典の開催地をチリのサンティアゴに移し、ブドウ畑観光地の年次ランキングを軸にした1週間のイベントへの国際メディア招待を始めた。

ロンドンの広報会社Phipps　Relationsでジュニア・アカウント・エグゼクティブを務めるBella Brownが送付した招待状とフォローアップメールによると、ホスト付きメディアプログラムは2026年11月14日（土）から11月21日（土）まで実施され、メインの授賞式は11月18日（水）にサンティアゴで行われる予定。Brown氏は、招待はGrupo LiderazgoとSantiago de Chileを代表して送られたと述べた。

このイベントは、授賞式がチリで開催される初めての機会となる。運営側は、この移転を、国際的なワインツーリズムとホスピタリティに深く結びついてきたランキングにとって重要な一歩だと説

明した。招待状では、2026年版は世界有数のワイン生産国の一つでデビューを果たすにあたり、賞にとって新たな段階を意味するとしている。

ランキングの名称は現在、The 50 Best Vineyardsとして表記されている。運営側は、以前はThe World’s 50 Best Vineyardsとして知られていたと指摘した。年次リストはワインの品質だけでなく、ホスピタリティ、建築、観光魅力、デスティネーションとしての価値を含む総合的な来訪体験にも焦点を当てている。招待状の中で運営側は、世界中のブドウ畑体験における卓越性の指標だと述べた。

サンティアゴでの式典には、ブドウ畑運営者、観光関係者、ワイン業界関係者、招待メディアが集まる見通し。イベントでは、表彰対象として選ばれた2026年のブドウ畑リストが発表される。運営側はまた、授賞の夜以外にも、チリの首都で追加の祝賀行事や地域体験がプログラムに含まれると述べた。

招待状に示された日程は、サンティアゴでの必須コアプログラムと、2つの任意の地域拡張プログラムに分かれている。サンティアゴ部分は11月16日から11月19日までで、招待客の参加必須として記載されている。これには授賞式への出席と関連する公式行事が含まれる。

サンティアゴでのイベント前には、11月14日から11月16日まで、アパルタ・バレーへの任意訪問が用意されている。招待状によると、この旅程にはVIK、Clos Apalta、Montes、Lapostolleを含む、チリで最も認知度の高いブドウ畑プロパティの一部を訪問する内容が含まれる。運営側はこのプログラム部分を、中央チリの著名なワイナリー、主要なブドウ畑建築、確立されたワインツーリズム資産を紹介する機会として位置づけた。

授賞式後には、招待客は11月19日から11月21日までのビオビオ地域への任意訪問にも参加できる。運営側は、この拡張プログラムが冷涼な気候のワイン、海岸沿いの景観、地元のシーフードに焦点を当て、チリのワイン地帯のうち、同国のよりよく知られた中部バレーと通常結び付けられるイメージとは異なる側面を示すと説明した。

招待状によれば、承認された参加者に対しては、エコノミークラスの航空券、地上移動、現地体験、食事、4つ星および5つ星宿泊がGrupo Liderazgoの負担で全面的に提供される。運営側は、参加枠には限りがあり、先着順で割り当てられると述べた。元のメールでは、2026年9月21日（月）までに出席確認を行い、旅程のどの部分に参加したいかを明記するよう求めていた。その後に送られたフォローアップメールでも、招待者に改めて参加希望の有無が尋ねられた。

今回の案内は、主要なワインアワードにおいてデスティネーション・マーケティングの役割が拡大していることを映し出している。こうしたプログラムは、単なるランキングにとどまらず、ワインツーリズム地域を世界のメディアや業界関係者に紹介するプラットフォームとしての機能を強めている。開催地としてチリが選ばれたことは、その広がる潮流に合致する。チリはラテンアメリカで最も確立したワイン輸出国の一つであり、ワイン生産だけでなく、ブドウ畑滞在、食の観光、デザイン性の高いワイナリー、地域旅行体験を含めたイメージ拡大に長年取り組んできた。

式典をサンティアゴで開き、アパルタとビオビオへのサイドトリップと結び付けることで、運営側は、代表的なワイン産地と新興のワイン産地の両方を示そうとしているようだ。コルチャグア・バレーにあるアパルタは、すでに高級赤ワインと高級ワイナリープロジェクトで国際的に広く知られ

ている。一方、さらに南のビオビオは近年、冷涼な気候のスタイル、小規模生産者、チリのワイン産地として一般にイメージされる景観とは異なる風景で、注目を集めてきた。

招待状はまた、The 50 Best Vineyardsブランドの国際的な到達範囲が引き続き広がっていることも強調している。年次リストは、ホスピタリティの賞、旅行関連の表彰、ワイン業界のプロモーションの要素を組み合わせることで認知度を高めてきた。個別のボトルや生産者を対象とするコンペティションとは異なり、このランキングはブドウ畑を訪れる体験を重視しており、国際的な露出を求める観光局や地域開発団体と強く合致するアプローチとなっている。

招待状とフォローアップメールのいずれにも、審査スケジュール、投票 प्रक्रिया、サンティアゴのプログラムに参加する見込みのメディア数に関する詳細は示されていない。資料はむしろ、旅程、ホスト体制、2026年版の開催地としてチリが持つ意義に重点を置いていた。

招待状を配布したPhipps Relationsは、飲料とホスピタリティ分野で業務を行う英国拠点のコミュニケーション代理店。やり取りの中でBrown氏はメールをジュニア・アカウント・エグゼクティブとして署名し、The 50 Best Vineyardsキャンペーン専用のアドレスを通じた返信用連絡先を記載していた。

招待状に記載された公式ウェブサイトでは、The 50 Best Vineyardsはブドウ畑観光体験に特化した国際ランキングと紹介されている。運営側は、2026年のサンティアゴ大会で、世界を代表するブドウ畑の目的地をたたえると同時に、チリを初めてその議論の中心に据えることになると述べた。